

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

多様性理解授業、スタート!

琴丘小学校5・6年生で実施した多様性理解授業「相手の気持ちを考えて行動しよう」～きこうってなに?～を紹介します。

1 ねらい

- (1) 考え方や感じ方は人それぞれ異なることに気付くとともに、自分の周りに読み書きや感じ方に困り感を抱えている人がいることを知る。
- (2) 「あったか言葉」を考えたり、友達と協力する体験を行ったりして、「きこう」（相手の気持ちを考えて行動する）の大切さを知る。

2 学習活動

- (1) 考え方や感じ方はそれぞれ違うことに気付くために、二択問題（どちらにする？）に挑戦する。例：食べるのならラーメンとカレーどっち？
- (2) 困り感を理解するために、読み書き、感じ方の疑似体験を行う。
例：文字が重なり合っている文章を読む。
- (3) 相手をうれしい気持ちにする「あったか言葉」を考えて発表する。
例：自分で考えた「あったか言葉」を発表する。
- (4) 友達と気持ちを重ね合わせる心地良さを体験する。
例：二人でペンを支え合い、床に落とさないように立ったりしゃがんだりする。
- (5) 相手の気持ちを考えて行動できるように、「き（気付く）・こ（声をかける）・う（動く）」の大切さを知る。

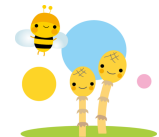


3 子どもたちの感想

- ・「ありがとう」「元気でいいね」などのあったか言葉を使うと、いろんな人がうれしくなったり、ハッピーになったりするから、私は相手の気持ちを考えながら行動したいです。
- ・私はいつも正直になんでも言ってしまうタイプなので、相手のことを思いやった行動を心がけたいです。「きこう」をマスターして、誰もが認める天才になりたいです。
- ・「ちがい」はその人だけの個性や特徴なので、馬鹿にしてはいけなさと分かりました。やはり相手の気持ちを考えて行動したり、発言したりすれば良いと分かりました。
- ・違いとは、欠点ではなく、その人の個性であるということが分かりました。生きていることが奇跡だと思い、一人一人の個性が活かせるようになればいいなと思いました。
- ・相手の気持ちに気づいて、思いやりのある行動ができるといいです。話すのや読むのが苦手な人が身近にいるということを感じておき、「きこう」を意しきして生活したいです。
- ・いつも普通に見えている文字がまがって見えたり、いつも使っている物の音がうるさいと感じたりする人がいることにびっくりしました。※6月に浜口小学校（3年）で実施。



とれたて直送便



○子どもの心の動きに共感して、感性の芽を育てよう！

4歳児でゆっくりペースのSさんは、虫や植物が大好きです。つくしを摘んだとき、うれしそうな表情で「人が歩いているみたい！」とつぶやきました。保育者が「そうだね」と共感したことで、Sさんは感じた心の動きを体に刻むことができました。

○人は一人では生きていけない、人は互いに助けられて生きている！

トラブルを減らすためには、①要求（したい）②拒否（止めて）③注目（見て）④援助（助けて）の言葉を身に付けることが重要です。特に「助けて」と依頼ができないと、一人で悩みを抱え込んでしまいます。自分でできることは自分で、自分でできないことは周りに助けを求めることが大切です。できないことは欠点ではなく、その人らしさで、意味があります。